

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	31	学校名	仙台市立国見小学校	校長名	村田 隆則
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

『美しい環境を保つために 続けよう・始めよう』



2 取組の紹介

○ 花植え活動



国見小学校では、年2回、春と秋に花植え活動を行っています。今年度は春にサルビア、ブルーサルビア、マリーゴールドを、秋にはパンジーを植えました。学級ごとの花壇に花の苗を植え、雑草を抜いたり、水をやったりしながら定期的に世話をしています。きれいで美しい花壇になるように皆で見守っています。

○ 環境委員会の設置

(1) 緑化活動

委員会活動では、美しい花壇が保てるように、定期的に雑草取りを行いました。また今年度は、仙台市公園力協会主催の「未来へ花でつなぐ学校花壇事業」に参加しました。プレゼントしていただいた花苗を正門前に植え、環境委員会が中心となって水やりを行いました。



(2) タブレット端末を生かした環境維持への取組

今年度の環境委員は、クロームブックを有効活用しながら活動しました。話し合いでは、グーグルフォームを使って意見を取りまとめ、新たな取組を考えました。また、美しい花壇を維持するために、注意を呼び掛ける動画を作成しました。また、「いじめ防止きずなキャンペーン」の際には、花言葉クイズをスライドで作成し、全校児童に紹介しました。花に意識を向け、大切に育てようとする意識を高める工夫ができました。



○ 学年の取組

総合的な学習の時間（4年生）

総合的な学習の時間に環境問題やSDGsについて学習しました。「SDGsの歌」を覚えることをとおして、17の目標について楽しく学びました。また今年度も「かんきょう新聞」コンクールに全員で挑戦しました。企業で行っているSDGsの取組を読んで、分かったことや自分の考えを新聞にまとめる活動も行いました。それぞれの学びをとおして、環境問題を身近なものとして捉えるとともに、学校や家でできる取組を具体的に考えたり、実践したりすることができました。

3 取組の成果（児童生徒の変容）

今年度は、前年度の活動を継続させるとともに、新たな活動にも挑戦することができました。環境保全に関わるキャンペーンへの参加やコンクールへの応募をとおして、環境問題について関心を高めました。また、タブレット端末を活用し、環境維持の取組や、学習のまとめを行い、子供たちの興味関心に沿った形で、環境問題に対する理解を深めることができたと思います。今後も、あらゆる機会やICT等を有効に活用し、環境問題に興味を持ち、保全につながる活動に取り組んでいきます。

令和4年度 社の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	32	学校名	仙台市立生出小学校	校長名	石垣 恵
------	----	-----	-----------	-----	------

1 取組のタイトル, テーマ

継続は力なり！こどものまち「ラッキークローバータウン」でSDGs



2 取組の紹介

本校では、昨年に引き続き、「こどものまち」と称し、流通する通貨を設定し金銭の受け取りや支払いを行う、仮想空間の街を楽しむ行事を行いました。

今年度もお店は、市役所を含め6店舗の展開でした。どのようなお店を出店するのかは、5・6年生で話を重ね、絞り込んでいきました。3年生以上がお店の店員として「こどものまち」を運営します。1・2年生は「こどものまち」の飾り付けを担当し、当日はお客さんとして街を盛り上げました。全校児童、保護者、職員、地域の方々等が街を楽しむためには住民税を支払う必要があります。納税するとオリジナルキャラクターの缶バッジをもらうことができます。缶バッジは「こどものまち」の住人の証です。

映画館「わくどき映画館」、ゲームセンター「ラッキーゲームセンター」など新しいお店も出店する中、昨年に引き続き出店したリサイクルショップ「ニコニコリサイクル」は今年も注目されました。児童や保護者、職員に呼び掛けて、自宅にある不要となった物や本などを買い取り、販売するという内容のお店です。児童は「出品するものを準備しています！」「今年はどんな物が売っているのかな〜。」「こんな商品があったら買いたいな〜。」と昨年までの経験から当日に向けて大きな期待を寄せていました。今年度も多くの商品が集まりました。「こどものまち」が保護者の方々にも少しずつ浸透してきており、「こどものまちのために、不用品をまとめておきました！」という声も聞かれ、児童と共に、保護者の皆様の意識も年々高まっております。また、働いて受け取ったお給料で買う商品は特別のようで「ずっと大事に使います！」と意気込む姿が見られました。SDGsのゴール12「持続可能な生産消費形態を確保する」の中に「持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする」があります。この目標に沿った活動を、今年度も継続して取り組むことができました。

「こどものまちプロジェクト」について（お知らせ）
 ～～ リサイクルショップ「ニコニコリサイクル」への協力のお願い ～～
 （リサイクルショップ・古本館）

親族の紙、保護者の皆様におかれましては、ますます御経済のことと拝察いたします。さて、フリー参加日を実施される「こどものまちプロジェクト」にて、「ニコニコリサイクル」というリサイクルショップ（子供が運営する店です）が出店されます。

昨年度は、リサイクルショップと古本屋さんがそれぞれありましたが、今年度は、この2つのお店をひとつにし、「ニコニコリサイクル」としてこどものまちへ出店します。

つきましては、11月22日（火）～12月5日（月）に、「ニコニコリサイクル」で、当日仮想通貨で販売する品物を募集しますので、下記要項をお読みの上御協力くださいますようお願いいたします。

1 ニコニコリサイクルについて 当日こどものまちで使う仮想通貨・「チャオ」活動の役割

11月22日（火）から12月5日（月） ・品物の募集（ニコニコリサイクルの店員が出品された品物を仮想通貨で買い取ります。） 12月9日（金）まで ・品物を出品した子への買い取り金銭の支払い（こどものまちで使う仮想通貨を渡します。） 12月13（火）【こどものまち当日】 ・販売（募集した品物を、仮想通貨の価値で販売します。）	
---	--

2 募集する品物について（出品は御協力いただける方のみで結構です。）

① ご家庭にある不要品（出品できるものかどうかは、御家族で相談の上お子さんに決めてください。）

出品できるもの ・人形やぬいぐるみ ・文房具 ・小物箱（キーホルダーや布製風呂敷） ・雑貨 ・タオル（新設）・筆記用具 ・玩具 家にあるらない本 ・雑誌 ・漫画 ・マンガ ・レシビ ・絵本 ・図鑑 ・参考書や問題集	出品できないもの ・学校に持ってくるのが大変な大型の物 ・電子機器 ・衣類 ・食べ物 ・高価な物 ・家具 ・貴重品 ・扇風機として左記以外の物 ・やぶれている本 ・腐敗されている本 ・イラストだけの本 ※学校へ持っていくかどうかの適切な判断をお願いします。
---	---

② 出品する場合 手順
 品物について…「品物リスト」に品名を保護者が必ず記載し、品物と一緒に提出してください。
 （児童一人あたり 最大10冊までとさせていただきます。1冊でも受け付けます）
 本について…「本のタイトルリスト」に品名を保護者が必ず記載し、品物と一緒に提出してください。
 （児童一人あたり 最大20冊までとさせていただきます。1冊も受け付けます）
 ※ 送料・送料が無い場合は受け取りができませんので御注意ください。
 ③ こどものまち当日売れ残った場合は、学校で引き取らせていただきます。予めご了承ください

買い取りの案内文書



集まった本

今年のオリジナルキャラクター「ペンミン」です！6年生が考えました！



下級生にも大人気！

3 取組の成果（児童生徒の変容）

実社会につながる体験活動「こどものまち」に継続して取り組むことで、児童や保護者、地域の皆様にも「こどものまち」「リサイクルショップ」が浸透し、自宅にある物を「リユース」という視点で考えることができるようになってきており、物を大切に使う姿勢が育ってきています。



リサイクルショップの看板

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	34	学校名	仙台市立宮城野小学校	校長名	鈴木 伸茂
------	----	-----	------------	-----	-------

- 1 取組のタイトル, テーマ
「自分たちができるエコ活動を実践しよう」



- 2 取組の紹介
(1) 学校全体の取組

ごみの分別

- ・各教室に置くごみ箱を、もえるごみ・プラスチックごみに分け、分別をしました。



- (2) 委員会・児童会での取組

①JRC 委員会

1円玉募金活動とペットボトルキャップの回収をしました。1円玉募金で使った募金箱は牛乳パックを再利用したものです。児童のリサイクルに対する意識を高めました。



回収したペットボトルキャップ



牛乳パックを使った募金箱



花を紹介するポスター

② 環境委員会

花壇の花を紹介するポスターを作成し、掲示しました。

③ 児童会活動「若菘まつり」

できるだけごみを出さない工夫をして店作りを行いました。使用した段ボールやペットボトルなどは資源回収に出しました。

- 3 取組の成果 (児童生徒の変容)

日頃からごみの分別をすることで、児童の分別意識が高まり、互いに声を掛け合う様子も見られました。

委員会等での取組をとおして、エコ活動への関心が高まりました。ペットボトルキャップ回収では、環境問題への関心が高まりました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	36	学校名	仙台市立荒巻小学校	校長名	庄子 裕
------	----	-----	-----------	-----	------

- 1 取組のタイトル, テーマ
第4学年総合的な学習の時間, 社会科における取組



2 取組の紹介

- ① 困っている人のために活動している方々の話を聞く。

青少年赤十字 (JRC) やユニセフの方の講話をきっかけに、困っているのは老人や被災地の人間だけだろうかと考え始め、実際には身近にも困っている方がいることを知りました。

ユニセフの人から世界では、同年代の子供が水を汲みに行くために学校に行けないということを聞き、水を大切にしなければならないという気持ちが芽生えました。



- ② 動物の命の大切さに気付く。

八木山動物園で、動物たちを目の前にしながらお話を聞きました。

- アフリカゾウ

ゾウの牙で作られた箸や判子は高級感があり、人気があります。アフリカでは高値で取引されるため、密猟が行われ、多くのゾウが命を失っていることを知りました。

- ホッキョクグマ

人間の活動によって地球温暖化が進み、ホッキョクグマの住む北極の氷が溶けていることを知りました。他の生き物と共存していくためには、できるだけ化石燃料を無駄遣いしないようにすることが大切だと結論付けました。

- ③ 社会科「ごみのしよりと利用」の学習

「わたしたちの生活と命～命はだれのもの～」という学習活動で、ごみを収集してから処理するまでには、様々な工夫があることを学びました。ごみを分別して収集し、資源物をリサイクルすることの大切さを学びました。また、ごみを燃やす時は、焼却熱を温水プールに利用していることを知りました。学習の過程で、児童は、ごみは分別することで資源として活用され、また、ごみを減らすことで、環境を守ることができることに気付きました。ごみではなく、資源として考えることで、ポイ捨てをなくし、ごみを分別する重要性を多くの人に促し、行動していくことが大切であるという結論に至りました。



総合的な学習の時間に気付いた地球温暖化やSDGsと社会科の学習で学んだことは、自分たちだけの問題ではないと分かり、現在、ポスターや新聞、スタンプラリーカードを作成し、解決策を学校内外に広める活動に取り組んでいます。2月には、校内テレビ放送でCMを発表し、全校でできることを実践する予定です。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

動物園では、「動物を守ろう」という思いを持ち、自分事として捉えられる児童が増えました。プレゼンテーションやポスター作りでは、「命と環境を守る大切さ」を広めるために、更に動物や環境について調べ、多くの人に伝えようとする工夫が見られました。

広める活動だけでなく、家庭でのごみ処理の仕方や、節水・節電、給食の残食を減らそうとするなど、環境を守ることに進んで取り組む姿が見られるようになりました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	37	学校名	仙台市立鹿野小学校	校長名	留守 智信
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ

「未来に向かって ～今の私たちにできること～」



2 取組の紹介

(1) 緑化活動

- ・ 鹿野小学校の環境委員会では、緑化環境の整備を行っています。春から夏にかけてはチューリップやサルビア、マリーゴールドなどが、晩秋から冬には葉ぼたんや越冬パンジーなどが花壇を彩り、四季折々の草花を身近に感じられる環境づくりに努めています。
- ・ 学校花壇では、学校給食からの生ゴミなどを堆肥化した肥料「杜のめぐみ」を使用し、仙台市のリサイクル事業に取り組んでいます。

(2) ゴミの分別

- ・ 鹿野小学校では、ゴミ箱に「燃えるごみ」、「プラごみ」、「エチケットごみ」の表示を付けて設置し、各教室でゴミの分別を行っています。また、校内のゴミ集積所はそれぞれ別の場所に設置し、各教室から排出されるゴミが最後まで分別させた状態で回収できるようにしています。「エチケットごみ」については、使用済みのマスクや鼻をかんだティッシュのゴミであるため、児童には触れせず、担任が毎日専用の集積所に捨てるようにしています。

(3) 各学年での取組から

- ・ 4年生では、社会科「ごみの処理と利用」の学習において、松森清掃工場・資源化センターへ見学に行きました。清掃工場では、ゴミを処理する仕組みについて学び、資源化センターでは、ゴミの再生や再利用の取組について知ることができました。

工場で働く人から話を聞いたり、実際にごみを処理する様子を見たりしたことで、ゴミの分別に対する理解を深めることができました。

子供たちが、それぞれの家庭において意識することなく取り組んでいたゴミの分別ですが、今後はより高い意識で取り組んでいけるきっかけとなりました。



- ・ 5年生では、総合的な学習の時間において、学校の田んぼで米作りに励みました。地域の方に教えてもらいながら、春から秋にかけて田んぼの管理を行いました。また、米作りの学習は収穫して終わりではなく、藁も利用してしめ縄作りにも取り組みました。自分たちの育てたものを無駄にすることなく、全て利用することができました。

子供たちは、食べ物大切さを改めて実感するとともに、自然の資源を上手に活用していこうと考えるきっかけとなる学習になりました。



3 取組の成果（児童生徒の変容）

自然の資源を大切にすることやゴミを分別することは、私たちにとって当たり前のことになりつつあります。しかし、その分、どうしてそれらが大切なのが分からずに取り組んでいる人もいることでしょう。未来の環境を守るために行っているということを、今回の取組で子供たちは気付くことができました。今後も、子供たちにこうした機会を作っていきたいと思います。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	38	学校名	仙台市立台原小学校	校長名	佐々木 友康
------	----	-----	-----------	-----	--------

1 取組のタイトル、テーマ

「身近な自然・環境について考えよう」



2 取組の紹介

・校内の花壇づくり

全校児童で、学校内の花壇や鉢の苗植えに取り組みました。各学年で作業を分担して行い、その後は植えた花の苗を大切に育て、花や緑の豊かな環境づくりに励みました。



・台原森林公園をフィールドにした学び

台原森林公園は、学区内にある身近な公園です。

1学年では、生活科の授業として、公園の自然に触れ合いました。虫取りをしたり、どんぐりや松ぼっくり拾いをしたりして楽しみました。また、拾った木の実でアクセサリやこま作りにも挑戦しました。



3学年では、総合的な学習の時間として、公園にあるホタル池について学びました。外部講師からお話を聞き、池ができるまでの経緯やホタルの生育等を詳しく知ることができました。



・防災について考えよう

4学年では、総合的な学習の時間で外部講師を招き、防災について学びました。また、救急救命の方法を学びながら、地域の防災のためにできることや自分たちでもできる緊急時の対応について学びました。

・身近な自然環境の問題を知ろう

5学年では、総合的な学習の時間で外部講師を招き、地球の温暖化現象について学びました。また、貴重な水と食料についても外部講師を招いて学習しました。校外学習では七北田川へ行き、上流・中流・下流の水質や生物調査を体験しました。



3 取組の成果

花苗を植える作業体験をとおして、子供たちは自然の美しさを喜び、学校の植物を大切に、豊かにしていきたい、という思いを持ちました。植物が花を咲かせた様子を、ぜひ来年の新入学生に見てほしい、と開花を心待ちにしています。

台原森林公園での活動では、1年間を通じて計画的に活動を実施したことによって、四季の違いや変化を見取ることができました。また、自然の中で様々な遊びに取り組み、身近な自然により親しみを持っていました。

4学年で行った総合的な学習の時間での学びは、地域の防災について考える学習へ発展しました。地域のハザードマップを見合い、どこに危険があるのか、緊急の際にはどこへ避難するかなど話し合いました。さらに、気付いたことを地図に書き込んでいく中で、普段見慣れた通学路にも多くの危険が潜んでいることに気づき、自分たちが生活している地域を防災という新たな観点で捉え直すことができました。

5学年で行った総合的な学習の時間での学びを生かし、校外学習では七北田川へ出向いて川の調査に取り組みました。上流・中流・下流と、それぞれの自然の様子を観察したり、そこに暮らす生き物などを調べたりしてきました。自然と触れ合う中で、その価値を改めて見直すことができ、環境問題について考えていくことの大切さに気付くことができました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	39	学校名	仙台市立四郎丸小学校	校長名	小池 正弘
------	----	-----	------------	-----	-------

【取組の紹介・テーマ】

1 「新校舎に ^{いろいろ}彩 を添えよう」

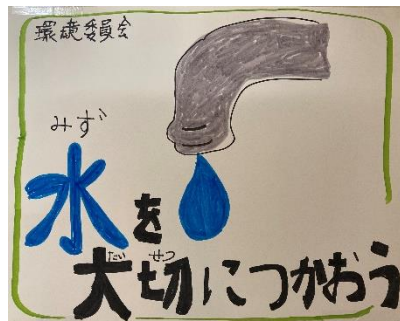


夏休み明けから新校舎に引越しをした四郎丸小学校。環境委員会の取組としてプランターに花を植え、学校の顔である昇降口に彩を添えました。植えるに当たって、事前に児童たちで植える花の季節性や種類ごとの耐性を調べるなどして、入念な計画を立てました。当日は PTA や地域ボランティアの方々のご協力もいただき、植え方や長く花を咲かせるためのコツなどアドバイスをもらいました。花を植えるだけでなく「美しく育てる」「長く咲き続ける」ことを考えて定期的に草取りや追肥をしています。



2 「一人一人ができるエコ活動からはじめよう」

- ① 日常の中にある節水・節電に取り組みました。節水では、ポスターで蛇口の閉め忘れの注意喚起や、必要最小限の水量をバケツに入れて雑巾拭きに取り組む児童の姿が見られました。節電では、係活動の中に「電気係」を設けるクラスもあり、特別教室での授業の際には、こまめに教室の電気を消していました。省エネへの取組が習慣化されてきています。
- ② すべての教室にプラスチックごみ用と燃えるごみ用の表示を付けた二種類のごみ箱を設置しています。給食時に出るストローの袋をはじめ、ごみの素材を確認して丁寧に分別してきました。4年生は、社会科の授業で「資源ごみのゆくえ」を学習したことで、資源を大切にする意識が高まりました。



3 取組の成果（児童の変容）

環境保全への取組を、学校生活全体を通じて行ってきたことで、児童のエコに対する意識が高まっています。今後も身近な環境に目を向け、「人も自然も大切にする」という気持ちを育てていきます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	40	学校名	仙台市立新田小学校	校長名	熊谷 裕行
------	----	-----	-----------	-----	-------

1. テーマ 「今、自分たちでできること」



2. 取組の紹介

新田小学校では、委員会ごとにテーマを決め、エコ・スクール活動に取り組んでいます。ボランティア委員会では、「エコキャップ（ペットボトルのキャップ）回収」を計画・実施しました。緑化委員会では、「花の苗植え」「水やりと除草作業」を計画・実施しました。また、PTA緑化委員の方々と一緒に「手作りネームプレート」「コキアのこぼうき作り」に取り組みました。

3. 取組の成果（児童の変容）

[ボランティア委員会]

第1回エコキャップ回収（R4年9月実施）では、ポスターやテレビ放送で全校児童への呼び掛けを積極的に行いました。呼び掛けの効果もあり、日を追うごとにエコキャップの個数が増えていきました。想定よりも多くのエコキャップを回収することができ、児童は自分たちの活動が成功していると実感できたようでした。



エコキャップ回収の様子

この第1回の結果を受け、更に学校全体にエコキャップ回収の協力を促すために活動を行いたいと、委員会の児童から意見が出ました。第1回の結果が分かるように、ポスターの掲示やテレビ放送を行い、第2回エコキャップ回収がより満足できるものになるよう、働き掛けました。



回収されたエコキャップ

この児童の意欲の高まりの中で、第2回エコキャップ回収（R5年1月）が実施されました。最終的に、1回目と2回目の活動で、ポリオワクチン52人分に当たる、およそ210kgのペットボトルのキャップを集めることができました。自分たちが実施した活動で人の命を救うことができたことと実感でき、児童は自分たちが行った活動の意義を感じたようでした。

[緑化委員会]

花の苗植え（R4年6月・10月の2回実施）では、マリーゴールドやブルーサルビア、パンジーなど、その季節が感じられる花苗をプランターに植える活動を行いました。1年を通じて、きれいな花々で登校する児童や来校される方を明るく出迎えられるように、当番制で朝と放課後に水やりをしたり、プランターや周囲の除草作業を行ったりしました。



花の苗植えの様子

また、PTA緑化委員の方々にご協力いただき、全校児童に花の名前を知ってもらえるように「手作りネームプレート作り」と、PTAの方々が学校の周りで育てている「コキア」を使った小ぼうき作りを行いました。特に小ぼうき作りでは、作るだけではなく、植物に対する説明や活用の仕方まで話を聞き、実際に使用して簡単な清掃活動も行いました。



ネームプレート作り

年間の活動を通して、自然を維持していく大変さを実感するとともに、自分たちにできることを考えながら大切にしていこうという姿が強くなったように感じました。

コキアの説明【左】

小ぼうき作り【中】

清掃活動【右】

